

2019年度「演習Ⅰ」受講申込要領

1. 対象

- (1) 22期生
- (2) 21期以前で「演習Ⅰ」の単位を修得していない学生

2. 注意事項

- (1) 「演習Ⅰ」は必修科目ではありませんが、当該科目の単位を修得していなければ、「演習ⅡA・ⅡB」・「演習ⅢA・ⅢB」・「卒業論文」を履修できません。
- (2) 2年次前期の「ビジネス外国語」(必修科目)は、「演習Ⅰ」の担当教員が担当するクラスを履修することになります。
※「演習Ⅰ」を受講しない場合(ゼミ無の場合)は、別途指定されたクラス(ゼミ無・再履修クラス)を履修することになります。
- (3) 商学科の学生は商学科の演習担当教員の「演習Ⅰ」のみ、経営学科の学生は経営学科の演習担当教員の「演習Ⅰ」のみ受講申込できます。
- (4) 1年次の終わりには、必ず「主専攻」と「副専攻」を選択しなければなりません。その際には、「演習Ⅰ」の担当教員の所属コースが影響します。必ずP2「3.『主専攻』と『副専攻』」を理解した上で受講申込をしてください。
※「演習Ⅰ」を受講しない場合(ゼミ無の場合)であっても、1年次の終わりには、必ず「主専攻」と「副専攻」を選択しなければなりません。

3. 「主専攻」と「副専攻」

原則として、「主専攻」と「副専攻」の変更は認められないため、熟慮して決めてください。なお、「主専攻」と「副専攻」は卒業要件に影響します（主専攻 28 単位・副専攻 20 単位）。

(1) 商学科の学生の場合の「主専攻」と「副専攻」

演習担当教員の所属コース	主専攻	副専攻
商学コース	<u>商学コース</u>	主専攻以外の 3 つのコース
会計学コース	<u>会計学コース</u>	主専攻以外の 3 つのコース

※「演習 I」を受講しない場合（ゼミ無の場合）は、主専攻を商学コース又は会計学コースから選択し、副専攻を主専攻以外の 3 つのコースから選択しなければなりません。

(2) 経営学科の学生の場合の「主専攻」と「副専攻」

演習担当教員の所属コース	主専攻	副専攻
経営学コース	<u>経営学コース</u>	主専攻以外の 3 つのコース
経営情報学コース	<u>経営情報学コース</u>	主専攻以外の 3 つのコース

※「演習 I」を受講しない場合（ゼミ無の場合）は、主専攻を経営学コース又は経営情報学コースから選択し、副専攻を主専攻以外の 3 つのコースから選択しなければなりません。

4. 書類配布

11 月 12 日(月) 午後 2 時半より、以下の書類を SAINS ポータル「お知らせ」で配布します。

- ・『受講申込要領』
- ・『志望申請書(第一次募集用)』
- ・『志望申請書(第二次募集用)』 ※第二次募集で受講申込する場合のみ使用
- ・『志望申請書(追加募集用)』 ※追加募集で受講申込する場合のみ使用

5. 第一次募集

受講申込方法
<p>【期間】 11月12日(月) 午後2時30分～11月19日(月) 午後5時20分</p> <p>【書類提出】 以下2点の書類の左上をホチキスで綴じ(①が1枚目で②が2枚目)、教務課内レポートBOXに提出してください。</p> <p>①『<u>志望申請書(第一次募集用)</u>』 …SAINSポータル「お知らせ」(2018年11月12日付)からダウンロード・印刷し、<u>黒のボールペン</u>を用いて記入</p> <p>②『<u>成績一覧</u>』 …SAINSポータル「<u>成績一覧参照</u>」画面を印刷(A4サイズ・白黒・両面印刷(長辺とじ)) ※不合格科目を非表示にしないこと(「合格・認定科目のみ表示」ボタンを押下しないこと)</p> <p>【注意事項】 演習担当教員によっては、事前説明会(受講申込するにあたっての個別ゼミ説明会)や面接を設けている場合があります。<u>詳細については、第一次募集開始とともに商学部掲示板に掲示しますので、速やかに確認してください。</u></p>
選考結果
<p>12月3日(月)午後1時に選考結果を2号館1階の学生ホールに掲示します。 <u>受講が認められた学生は、次の履修登録(3月)の際に、必ず自身で演習担当教員の「ビジネス外国語」と「演習Ⅰ」を履修登録してください。</u></p>

6. 第二次募集（定員に空きがある演習担当教員のみ受講申込可）

受講申込方法
<p>【期間】 12月3日(月)～12月10日(月) 午後5時20分</p> <p>【書類提出】 以下2点の書類の左上をホチキスで綴じ（①が1枚目で②が2枚目）、教務課内レポートBOXに提出してください。</p> <p>①『志望申請書(第二次募集用)』 …SAINS ポータル「お知らせ」(2018年11月12日付)からダウンロード・印刷し、<u>黒のボールペン</u>を用いて記入</p> <p>②『成績一覧』 …SAINS ポータル「成績一覧参照」画面を印刷(A4サイズ・白黒・両面印刷(長辺とじ)) ※不合格科目を非表示にしないこと（「合格・認定科目のみ表示」ボタンを押下しないこと）</p> <p>【注意事項】 演習担当教員によっては、事前説明会（受講申込するにあたっての個別ゼミ説明会）や面接を設けている場合があります。<u>詳細については、第二次募集開始とともに2号館1階の学生ホールに掲示しますので、速やかに確認してください。</u></p>
選考結果
<p>12月21日(金) 午後1時に選考結果を2号館1階の学生ホールに掲示します。 <u>受講が認められた学生は、次の履修登録(3月)の際に、必ず自身で演習担当教員の「ビジネス外国語」と「演習Ⅰ」を履修登録してください。</u></p>

7. 追加募集（定員に空きがある演習担当教員のみ受講申込可）

受講申込方法
<p>【期間】 2019年1月7日(月)～1月16日(水) 午後5時20分</p> <p>【手続き】 追加募集を行っている演習担当教員(定員に空きがある演習担当教員)を訪問し、面接による選考を受けてください。なお、訪問については、<u>必ず事前に電話・メール等でアポイントメントをとり、演習担当教員の指示を仰いだ上で行ってください。</u></p> <p>【書類提出】 以下2点の書類の左上をホチキスで綴じ(①が1枚目で②が2枚目)、面接の際に演習担当教員に提出してください。</p> <p>①『志望申請書(追加募集用)』 …SAINS ポータル「お知らせ」(2018年11月12日付)からダウンロード・印刷し、<u>黒のボールペンを用いて記入</u></p> <p>②『成績一覧』 …SAINS ポータル「成績一覧参照」画面を印刷(A4サイズ・白黒・両面印刷(長辺とじ)) ※不合格科目を非表示にしないこと(「合格・認定科目のみ表示」ボタンを押下しないこと)</p> <p>※演習担当教員によっては、①が不要の場合があります。アポイントメントをとる際に要・不要を確認してください。</p>
選考結果
<p>面接終了後に演習担当教員から選考結果が伝えられます。</p> <p><u>受講が認められた学生は、次の履修登録(3月)の際に、必ず自身で演習担当教員の「ビジネス外国語」と「演習Ⅰ」を履修登録してください。</u></p>

8. 演習テーマ表

以下の演習テーマ表を参考に、自身の将来の目標や興味・関心に基づき、志望する担当教員の「演習Ⅰ」を選択してください。なお、商学科の学生は商学コース又は会計学コースの「演習Ⅰ」のみ、経営学科の学生は経営学コース又は経営情報学コースの「演習Ⅰ」のみ選択できます。

【商学科の学生のみ】

■商学コース

演習担当教員名(主な担当科目)	演習のテーマ
渦原 実男 (流通総論、流通システム論)	流通でのマーケティングとイノベーション
小川 浩昭 (保険総論、保険各論)	FinTech と金融の未来
西田 顕生 (証券論、証券市場論)	日本の金融・証券市場における諸問題
福田 晴仁 (ロジスティクス論、交通論)	日本の交通、物流、観光についての研究
藤川 昇悟 (国際ビジネス論Ⅰ、海外ビジネス事情Ⅰ)	日本企業のグローバル・ビジネスの現状と課題

※西野 宗雄 先生、王 忠毅 先生は、募集を行いません（受講申込できません）。

■会計学コース

演習担当教員名(主な担当科目)	演習のテーマ
伊藤 龍峰 (会計監査論Ⅰ・Ⅱ)	会社会計入門
福浦 幾巳 (租税法論Ⅰ・Ⅱ)	税法の入門
工藤 栄一郎 (会計学原理Ⅰ・Ⅱ)	簿記会計の新しい学び
高橋 聡 (財務諸表論Ⅰ・Ⅱ)	企業会計と財務分析入門
森光 高大 (管理会計論Ⅰ・Ⅱ)	管理会計と意思決定入門
小川 哲彦 (原価計算論Ⅰ・Ⅱ)	原価計算入門
原口 健太郎 (経営分析論Ⅰ・Ⅱ)	財務諸表等を用いた経営分析入門

※小川 哲彦 先生、原口 健太郎 先生は、来年度着任される新任の先生です。

【経営学科の学生のみ】

■経営学コース

演習担当教員名(主な担当科目)	演習のテーマ
藤岡 豊 (国際経営論、国際経営史)	経営学入門
平木 真朗 (労務管理論、報償管理論)	働き方・生き方の社会科学
齋藤 靖 (経営管理論、経営組織論)	組織論・管理論
小野寺 香月 (経営史、日本経営史)	(日本)経営史・企業家研究
工藤 秀雄 (経営戦略論、イノベーション・マネジメント論)	経営戦略論、イノベーション・マネジメント
三井 (マーケティング論、マーケティング戦略論)	マーケティングに関する事項

※佐々木 武夫 先生は、募集を行いません(受講申込できません)。

※工藤 秀雄 先生は、来年度着任される新任の先生です。

※三井 先生は、来年度着任予定の新任の先生です(受講申込する場合の『志望申請書』の担当教員名欄は「三井」と記入してください)。

■経営情報学コース

演習担当教員名(主な担当科目)	演習のテーマ
田中 謙一郎 (経営科学、意思決定論)	データ分析とデータの視覚化
吉武 春光 (情報ネットワーク論、知識情報処理論)	人工知能(AI)の衝撃
史 一華 (データベース論、情報システム論)	ビジネスデータマネジメント
丸山 正博 (eビジネス論、情報セキュリティ論)	eビジネスと電子商取引
王 暁華 (生産管理論、サプライチェーン・マネジメント)	サプライチェーン・マネジメント
鄭 義哲 (財務管理論Ⅰ・Ⅱ)	投資家の目で会社を見る(株式投資)

※小島 平夫 先生は、募集を行いません(受講申込できません)。

9. 新任教員ゼミナール紹介文（三井先生のゼミナール紹介文はありません）

(1) 小川 哲彦 先生

商学科(会計学コース) 小川 哲彦 ゼミナール

小川ゼミのテーマは、「コストマネジメント」です。ゼミでは、はじめに財務会計や管理会計など会計学の基礎を学習します。その後、原価計算やコストマネジメントについて学習します。

原価計算は、原価、つまり製品の製造原価を計算する手続きを理解することが主な目的です。しかし、計算手続きを理解するだけでは十分ではなく、その原価に関する情報を正しく利用することが必要となります。さらに、企業は製造原価だけを計算しているのではなくさまざまな目的に応じたコストについても計算し、適切に利用しています。そこで、小川ゼミではコストマネジメントをテーマとします。コストマネジメントとはコストを削減・維持するなど、さまざまな観点から分析し、その結果を経営者などの意思決定に適切に反映させるためのマネジメントです。

また、ゼミは講義ではなく、皆さんの発表や質疑応答が中心となります。発表ではテキストの割り当て箇所をパワーポイントで資料を作成してもらいます。この発表は、今後、社会に出てから必要となるプレゼンテーション能力を身につけてもらうことが目的です。

(2) 原口 健太郎 先生

商学科(会計学コース) 原口 健太郎 ゼミナール

○ ゼミのテーマ

原口ゼミでは、主に財務諸表を分析することにより、企業の経営環境・経営状況を演繹的に推論し、戦略立案や意思決定に有効な情報を引き出す手法を学びます。

経営分析手法を自分のものにするためには、とにかくたくさんの実例、いわゆる「ケース」を分析していくことが大切です。したがって、本ゼミでは、経営分析手法の基礎を身に着けるための文献レビューはもちろんですが、その基礎を発展させるためのケース分析に力を入れていきます。これらの分析は、学術的な能力向上のみならず、皆さんが社会に出てからの実務において、自らの価値形成に大いに役立つものです。

○ 活動内容

最初に経営分析の基礎的な文献輪読を行った後、実務的なケースが多く掲載されている文献の輪読を行い、応用力を身に着けます。(希望次第では、MBA(経営学修士)課程で活用するような難易度が高めの文献を活用する可能性もあります。)

その後、実際の公表された財務諸表を用いたケース分析を繰り返すことにより、分析の力を養っていきます。

どんな分野でもそうですが、好きになること・興味を持つことが上達の一番の近道です。文献や分析対象の選定にあたっては、皆さんがどんな分野を分析してみたいか、相談しながら決めていきましょう。

○ 経営分析を身に着ける意義

実務において、経営分析手法が力を発揮する場面は、実に多岐にわたります。コンサルティングファームや監査法人のアドバイザー部門など、直接の専門とする部門ではもちろんのことですが、例えば、一般の事業会社でも、経営企画部門や財務部門等に配属になった際、経営分析手法は大きな価値を提供することができます。

○ 自己紹介(むすびにかえて)

私は、金融部門のITコンサルタントとして民間企業で勤務した後、地方公共団体に転職して主に財務・人事部門で勤務し、会計専門職として中央省庁に出向した経験があります。また、米国の公認会計士でもあります。ゼミの中では、幅広い実務経験をもとに経営分析の意義を解説するとともに、皆さんのキャリア形成の指導も行っていきます。

(3) 工藤 秀雄 先生

経営学科(経営学コース) 工藤 秀雄 ゼミナール

工藤ゼミでは、論理的思考力の地固めをしつつ、企業の行動を調査し分析する力をつける教育を行います。そのため、おおよそ3つのステップを踏みます。

①論理的思考力をつけるには、まず正確な日本語で構造的な文書を作成する力が必要となります。そのため、経営戦略やイノベーション・マネジメントに関わる書籍等を課題図書とし、その書籍に関する要旨・考察を執筆してもらい、赤字を入れつつ美しく論理的に正しい文書作成能力をつけます。

②基礎的な論理的思考力をつけた後は、経営戦略論やイノベーション・マネジメントに関わる代表的な理論枠組みを学び、その枠組みで実際の企業行動や経営現象を分析する力をつけます。たとえば、わが国の自動車産業は、現在も世界的な競争力を維持したまま、好業績をあげ続けています。一方、情報家電産業は苦境に立たされているのですが、おなじ「ものづくり」でも、なぜこうした業績差が生まれるのか等が、いくつかの理論枠組みを学ぶことではっきりと見えてきます。現実を分析するための、理論の「眼鏡」を修得するステップです。

③論理的思考力をつけ、経営現象を見通す理論を修得した後は、ゼミ生自身が関心のある領域を対象に、その経営現象を観察・調査・分析する力をつけます。その関心領域は、ものづくり等の産業やソフトウェア系の業界でも良いですし、自身が肩入れして懸命に調査するのであれば、エンターテインメント産業などでもかまいません。自身の興味がある産業で起こった、ある出来事に対し、自身で「なぜ」という問いを設定し、その問いに答えるため、理論を活用し、データを取得・分析しつつ、論理的にその「なぜ」に答える調査書・論文を作成する力をつけます。以上が工藤ゼミの概要です。

以上